



協力：リゾナーレ下関



伊藤 さゆきさん

2026ミス・ユニバース日本代表に選ばれ、世界大会へ。
人とのつながり、自然、歴史——。
下関での原点と、その先に描く未来を追いました。



©Miss Universe Japan 2026 Organization

▲6月23日、2026ミス・ユニバース ジャパン
ファイナルで日本代表に選出された瞬間。

小さな一歩を重ねて
人の力になれる自分へ
挑戦が、自分を変えた



6月23日に開催された「2026 ミス・ユニバースジャパンファイナル」で日本代表に選ばれた伊藤さん。名前を呼ばれ、喜びより先に浮かんでは「これから始まる」という思いでした。今では堂々とステージを歩きますが、幼い頃は人見知りで、3歳から地元の「劇団NIPPON」に所属したものの、当初は人前に出ることが苦手だったそうです。転機は小学6年生。舞台で演じた魔女役を褒められ、表現する楽しさを知りました。中学3年生で参加したオーストラリアでのホームステイも、出発前は気が進まなかったのに、「帰る頃には別れが名残惜しくなるほど楽しむことができました」。「やってみたいらできた」という経験が、少しずつ自信になったといいます。

世界大会に向けて練習を重ねる今も、大切にしているのは「まずは楽しむこと」。小さな一歩の積み重ねが、伊藤さんを変えたのです。

下関で育った心の根っこ

幼い頃、菊川町の祖父母の家で、泥だらけになって遊び、薪で沸かしたお風呂に入って育ちました。両親から教わったのは、周りの人への感謝。高校生の頃、父からは母への感謝を、母からは父への感謝を別々の機会に諭されたことが強く心に残っています。祖父母や家族、愛犬たちが喜ぶ姿が自分の喜びに。そんな感覚は、下関で家族や自然に囲まれて育つ中で培われました。

ミス・ユニバース：世界三大ミスコンの一つとされ、2026年に75周年を迎える。各国・地域の代表が、美しさに加え、知性や発信力、リーダーシップなどを競う。

市報×Instagram連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します♡



♡ Q 📍 @kitakita_kitakyuさん



♡ Q 📍 @peihei37さん



♡ Q 📍 @yacco405さん

(上から) 忌宮神社、長府庭園、海峡ゆめタワー

Editor's note

編集後記

◆表紙の撮影で焼いたアジを食べて、七輪で焼く魚のおいしさにはまりました。鮮魚店で新鮮な魚を買い、丸ごと網の上へ。使い捨ての網なら、片付けも簡単。脂がはぜる音と香ばしい匂いがたまりません。気付けば毎週のように魚を焼くようになり、すっかり週末の楽しみに。アジ、イカ、サザエ、タカノハダイ、シシャモ…。さて、次は何を焼こう？ (ふ)

▶ 世界大会に向け、ウォーキングや筋力トレーニングを重ねる。毎日の積み重ねを大切にしながら、世界の舞台で自分らしさをどう表現するかを磨く。



◀ 小学6年生の時、地元の「劇団Zing」の舞台で演じた魔女役の伊藤さん(右)。それまでは「やらされている」感覚もあったミュージカルだったが、この役がピッタリとはまり、先生に褒められたことで一変。「楽しい」と感じ、表現することに夢中になる転機となった。

▶ 日々の出来事を記す日記と、ミス・ユニバースに関する学びや社会情勢などを書き留めるノート。今の伊藤さんを映す大切な記録。



自分ができることは ないか

赤間神社や先帝祭をきっかけに平家の歴史に興味を持ち、今では三味線も習っています。自然、歴史、人とのつながりその一つ一つが、伊藤さんの価値観を形作りました。福岡で暮らす今も、時間を見つけては下関へ。関門海峡が見えると「帰ってきた」と感じるそうです。

思いを強くしました。そして、社会貢献活動を広げていくには、個人で動くだけでなく、自らが発信力を持ち、より多くの人に思いを届けることが必要だと考えるように。それが、ミス・ユニバースへの挑戦につながりました。自信があったから挑戦できたわけではありません。迷いやコンプレックスを抱えながらも一歩を踏み出し、小さな成功体験を重ねてきました。だからこそ「私なんて」と思う人にも小さな一歩を重ねてほしい。11月24日、プエルトリコで行われる世界大会へ。その先に見据えるのは、人の力になれる未来です。